

Minami Kyushu University Syllabus

[illegible]

授業計画 【第11回】	イ短調の練習 悲しげな印象を与える調である短調の中で、比較的取り組みやすいイ短調の曲を演奏することで、音楽表現の幅をさらに広げる
授業計画 【第12回】	試験曲の練習① 実技試験に向けた練習方法や効果的な練習の仕方などを学ぶ
授業計画 【第13回】	試験曲の練習② 楽譜の読み方や理解力を高めることで、より正確で美しい演奏を目指す
授業計画 【第14回】	試験曲の練習③ 試験曲を通して、その曲が持つ歴史的・文化的背景や作者の意図を理解し、より深い表現力を追求する
授業計画 【第15回】	試験リハーサル 試験曲の演奏に必要な様々な要素を習得し、より高度な演奏技術と表現力を身につける
授業の到達目標	1. ピアノ奏法の基礎を身につける。 2. 簡易伴奏に用いる基礎的な和声理論を習得し、主要三和音のコード奏に慣れる。 * 授業での十分な実践と自主練習を通し、着実かつ確実に習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	ピアノレッスンは、十分な自主練習(予習)を行って臨んでいることが前提となる。日々の練習の積み重ねが、上達の鍵となる。わずかな時間でも日々ピアノに向き合い、練習に努めること。(合計2時間半程度：1日20～30分)
授業時間外学習【復習】	レッスン後、速やかに自主練習を行い、レッスンで指摘された部分については特に重点的に練習し改善を図る。次のレッスンまで、時間を見つけてコツコツと自主練習に励むこと。(予習も兼ねて合計2時間半程度：1日20～30分)
課題に対する フィードバック	マンツーマンの個人レッスンを通して、個人のレベルやニーズに応じた指導を行います。
評価方法・基準	受講態度：40%、自主練習の有無：30%、実技試験：30%
テキスト	全国大学音楽教育学会 九州地区学会 編 『ピアノテキスト』 (カワイ出版)
参考書	『全訳バイエルピアノ教則本』(全音楽譜出版社)
備考	授業時間は「2時間」で、開始および終了時間にはレッスン室に集合し担当教員の指示を受ける。 複数の専門教員が担当します。